

護憲訴え17年目迎える

宗教者ネット集会200回

護憲を訴える超宗派の宗教者が集う「平和をつくり出す宗教者ネット」は20日、東京都千代田区

の参議院議員会館で200回目となる月例会会を「敵基地攻撃能力は侵略だ!」のテーマで開き、

約30人が参加した。政府がミサイル防衛戦略で検討を進める「敵基地攻撃能力の保有」は先制攻撃



200回の歩みを振り返る大倉一美神父（右端）

に当たり、遺囑と訴えるとともに過去の集会の様子をスライドで上映し、活動を振り返った。

同ネットは2003年に発足し、毎月の集会を重ねてきた。日本カトリック正義と平和協議会事務局長の大倉一美氏は「アメリカのイラク攻撃の後方支援に日本が自衛隊を送ったのが発端だった。キリスト教、仏教が共に立ち上がり海外派兵

「反対の署名運動をした」と当時を振り返った。

その上で、集会では「いのちを大切に」「武力で平和はつくれない」などの訴えを続けており、今後も「9条改憲の動きに対して信仰

を持つ者として行動し、集会を続けていかねばならない」と訴えた。

日本山妙法寺僧侶の武田隆雄氏は「17年目を迎えたことを喜び合いたい。継続は宗教者の祈りがあってこそだ。市民や

国会の中にも一点協働で、戦争を遂行しようとする勢力に立ち向かう流れをつくってきたと自負している。今後も宗教者が協働の模範を示したい」と抱負を述べた。

(山縣淳)